



日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

日本農業経営大学校

特別講義の様子

6月26日は前期最後の特別講義でした。講師としてお招きしたのは、株式会社ビビッドガーデン代表取締役秋元里奈さんと、VEGEO VEGECO 店舗マネジャー 杉本恭佑さんです。テーマは「生産者に寄り添う流通」。秋元さんはオンラインの直売所（食べチョク）の運営などをされています。杉本さんは根津にある「VEGEO VEGECO」という八百屋の店長をされています。農産物の販売に関して、ネットとリアルそれぞれの立場にいる方からお話を聞くというのが今回の主旨です。また、2名の講師をお招きしたこともあり、豪華に対談形式での講義となりました。

学生には聞きたいことを事前にアンケートで取っていたため、それに答える形で講義が進みました。具体的にはそれぞれの事業概要からはじまり、その事業のコンセプトやターゲット、資金調達やコストに関する点と、生産者との関係性など、多岐に渡って対談が展開され、その中でアンケートを元にして学生の質問等に触れて頂きました。お二人の話には共通する部分もあれば独自の考えがある部分など、対談ならではの面白さがありました。

個人的には資金調達の話が印象的でした。秋元さんによる創業2年目ならではの資金調達の話では、資金調達の種類につ



△対談の様子。右手奥が秋元さん、右手手前が杉本さん。

いてその違いや特徴なども教えて頂きつつ、秋元さんがどのような考えでどう資金調達しているのかなど具体的なお話を聞くことができました。また杉本さんから根津店の開店に向けてクラウドファンディングを活用したこととそのメリット、そして農業とクラウドファンディングの相性の良さなどのお話がありました。

対談ではそれぞれの特徴などを比較しながらお話を聞くことができます。様々な話の中から学生も多くこのことを学んだようです。後期もこのような形式の特別講義を開講していきたいと思えます。

企業実習 決意表明（2年生）

7月11日に企業実習の決意表明を行いました。

した。企業実習の期間は7月17日から10月12日までの約3カ月間です。学生たちは実習の目的、実習先の選定理由などを発表しました。

実習先は北が北海道、南は福岡県まで広がりますが、今年度は都内での実習が多く、実習先の業態も農産物の流通・販売だけではなく、ITの活用、グリーンツーリズム、観光農園の運営、カフェなど多種多様で、学生たちの関心の広さが伺えます。

就農後には、このような異業種での長期の実習はなかなかできません。社会人経験のない学生にとっては、そのような環境に身を置く貴重な時間となり、人間としても一回り成長することを期待しています。

企業実習が終わると、いよいよ経営計画の策定に向けて迫り込みが始まります。この実習での学びを通じて、自身のビジネスモデルを具体的な形に落とし込み、磨きをかけてもらいたいと思えます。

富士登山（2年生学校行事）

7月12日～13日にかけて、毎年恒例の富士登山を行いました。12日は雨が降ったり止んだりの不安定な天候でしたが、予定通り17時前に8合目の山小屋（宿泊場所）に到着しました。体力の回復を優先させるため慌ただしく夕食をとり仮眠、0時頃に頂上に向けて再出発しました。初日の天候と



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャージャパン

〒108-0075 東京都港区港南2-10-13 農林中央金庫品川研修センター5階

TEL：03-5781-3750 FAX：03-5781-3752



日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

日本農業経営大学校



△無事、下山しました。



△ご来光

は打つて変わり、月明かりが登山道を照らす穏やかな天候で、ひとりの脱落者もなく頂上に到達しました。山頂で太陽が昇るまで待機し、4時30分頃待望のご来光です。学生たちは思い思いに登頂の喜びを噛みしめていました。

食農ビジネスフォーラム

7月5日（木）、2年生と一部の教職員で「食農ビジネスフォーラム」に参加しました。同フォーラムは当法人のメインスポンサーである農林中央金庫と当法人が共催するもので、数百人が集まる一大イベントです。

本校からは堀口校長が学校の様子を紹介し、この日のために製作した3名の卒業生からのメッセージビデオを上映しました。またこれからの食農ビジネスを展望する全国農業協同組合連合会 チーフオフィサー 戸井和久氏の講演や、株式会社フアーム ノートホールディングス（酪農・畜産向けクラウドサービス）、株式会社アグリゲート（旬八青果店を起点とした生産・流通・製造・販売事業など）、株式会社浅井農園（施設栽培野菜の生産・流通・研究開発）といった農業界の最先端をいく経営者の熱いお話を伺うことができました。

講演の部のあとは、会場である帝国ホテルの大広間で懇談会が開かれました。今回は初めての試みとして、本校卒業生が提供した食材を用いた料理が参加者のみなさんに振る舞われました。米、野菜、豚肉、たけのこ、はちみつ、ジュース、大豆など、13人の卒業生から16種類の食材が提供され、料理人の方の手によって、目にも舌にもおいしい一皿が生まれていました。食材を提供してくれた卒業生のうち数名は当

日フォーラムにも参加し、自分の食材を使った料理の前で説明に立ちました。

会の終了間際、講演に登壇された浅井農園の浅井雄一郎社長が「こうやって、卒業生が増えて、一生懸命農業やっているのが分かったと本当に嬉しいね。〇〇くんとか、がんばってるね」と声をかけてくださいました。浅井社長は、ゲスト講師として何度も本校で授業をしてくださっており、昨年は先進農業経営体派遣実習（1年生のカリキュラムで4カ月間の農業実習を行う）で学生の受け入れもいただいています。本校や学生の様子を見守ってください。後にも学生・卒業生が活躍していけるよう、ますます学校運営に力を注いでいかねばと思っただけのときでした。



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャージャパン

〒108-0075 東京都港区港南 2-10-13 農林中央金庫品川研修センター 5階

TEL : 03-5781-3750 FAX : 03-5781-3752